



森の息吹

No.151 11月号
2018.10月29日発行
編集代表：五賀利雄
0133-26-3738

10月の活動

「協働の森」意見交流会と枝打ちや除伐活動

10月7日(日)「弁華別協働の森」意見交流会と懇談会 天候 弱雨 参加者 5名
平成30年度のこれまでの活動について話し合いをした

- ① 教育、研修活動では安全講習の講義に加えて実習も必要との意見があった。また、キノコの観察会の代わりに医療大学の薬草園を含めた散策はどうかとの意見も出た。
- ② 植樹は順調に行えた。下草刈りについては樹木の周りは鎌による刈り出しが大切であるとの事を確認した。



③ 山菜リストの作成は頂いたコメントを参考に写真も入れたリストを次年度中の完成を目指す

10月14日(日) 新山川草木の育樹祭に参加 天候 晴れ 参加者 7名

今回は青山の「22世紀の森」にて、保育作業の一つとして枝打ちを行いました。主催者側(新山川草木を育てる集い)のメンバーと班を組み、主にトドマツの枝を幹から切り落とす作業を行いました。植樹後10~15年前後の樹木と思われるものが対象で、身長程度の高さでノコギリやナタを使い、横に伸びた枝を全て切り落とす作業です。



トドマツゆえ脂(あぶら)が多く、手鋸の目がヤニで塞がれてしまいその後処理に一苦労しました

ただ、トドマツのヤニは香りが強くアロマ効果もあるようで衣服に染みつき未だにその香りが抜けません。が、森の香りとなって癒やし効果と化している気がしています。昼時はみんなで鉄板焼きで腹ごしらえをし、その後山田さん宅前の苗畑に移動、苗床を作り(午前中に山田さんがトラクターで

耕してくれる)、櫻田さんが拾い集めてくれたドングリ(ミズナラ)を蒔き解散しました。

10月20日(土) 苫小牧「和みの森」での除伐作業(新山川草木との協働作業)

まずは栗拾いです



天候 晴れ 参加者 6名
シラカンバにあらかじめ分担されている地区(i区)のサクラを順番にチェーンソーにて1本残し2本除伐の間隔で間伐を行いました。2時間ほどで終了しました。最後にB地区の下見を行い次の作業計画を立てました。



もう一息

編集担当より

2週間遅れで稲刈りをしました。例年の半分ほどの収穫です。一株の実入りも少なく明らかに不作です。そして、サトイモを今年始めて収穫しました。茎の根元にそれぞれ数個のサトイモが出来ていました。「酒のあて」に頂いています。美味です。やっと、ウォーキングを楽しめるようになりました。冬はもうすぐです。やることは満載です。



リレーコラム

炭焼きへの終わりなき挑戦

渡井 恭子

会の設立初期に森づくりセンターの指導で炭焼きが始まりました。悪天候以外実施して、いままで10数回？ なかなか思い通りの炭が出来ないのが現実？です。 初心に帰り当時の資料を読み返し基本的な事をもう一度考えてみました。

◎天気…伏せ焼きの場合、天候により土の乾燥具合が変化し出来を左右する。

ただ水蒸気が多いと木酢液が大量に作れる。

◎炭材…直径5cm以下がよく、太い物は2つか4つに割って使う。

◎燃材…言葉のとおり火の回りを良くする目的のため乾燥したもので枯枝でも良く、ストーブに入れる位の長さに切ったり割ったりして用意（大量）

点火に使う燃材はさらに細くしておく

◎粘土質の土…粘土質の土を混ぜることで窯の密閉性が高まる
これから炭焼き工程です

◎焚き口を風下にして多少登り勾配とする

◎敷き木を置き、煙突を設置して（曲がりや緩める）

揃えた炭材を中央は太いものを置き上下左右は細いもので並べる。

◎燃材を隙間なくこんもり乗せ、窯の周囲や煙突の周りなどにも隙間なく入れ込んでいき、トタン板をかぶせる

◎厚さ15cm以上に土で覆い、スッコプの裏を使い煙が出ないように土をたたく（粘土質の土が有効活用される）

点火し燃材を絶え間なく足す。煙が出始めたら色の変化や温度をみながら窯の様子を判断する。長い時間かかるが楽しいときでもある。とても恵まれていることに数年前よりご厚意で会員okadaさん宅の場所で炭焼きが出来ること。

高台に立地し田園風景の眺めが素晴らしく、さらに居心地の良い空気感があるのも感じます。

炭焼きの来年の成功を願いつつ、私の来年の目標にひとつします。



11月の活動案内

11月4日(日)

内容 「弁華別協働の森」 学習会と意見交流会のつづき

集合場所と時間 (株)キョウドウ事務所会議室に午後1:30までに集合。

先月お渡しした協働の森レジユメを参照の事。 午後3:30に終了予定です。

11月11日(日)

内容 備品の整備、チェック、機械のメンテナンス

集合場所と時間 山田氏倉庫前に10:00

午前で終了

